

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
<p>一貫した教育活動 地域と連携したキャリア教育の推進</p>	<p><b>中長期重点目標取組の1</b>  <b>【主な行動計画の目標①】</b>                      年間計画に沿って、キャリア教育プログラム、アセスメントシート、個別の指導計画の定着をはかる。  <b>【主な行動計画の目標②】</b>                      地域の福祉事務所と連携した研修会を通して、児童生徒の卒後を見通した日々の教育活動を推進する。  <b>【主な行動計画の目標③】</b>                      保護者と連携し、新しい個別の教育支援計画を作成し活用する。</p>	<p>① 年度初めに全体説明を実施。アセスメントシートのチェック、個別の指導計画の様式1及び様式2の記入は、各担任が行った。3学期半ばに、再度見直し、変化のあったところは赤字で記述した。                      ② 事業所見学会（6か所）を実施し、教職員の3分の1以上が参加した。事業所の懇談会は5事業所が来校、職員と研修会を持った。                      ③ 保護者への趣旨説明文書配布とアンケートを実施した。作成活用にあたって4月に教職員への説明会、2学期末にアンケートを実施し、意見集約した。教育支援計画を利用した事業所等に意見の聞き取りを実施した。</p>	<p>① 効果的な配布時期を検討し実施したことで、スムーズにでき、定着してきた。次年度はキャリア教育推進委員会を発足させ、5年計画で進められるよう検討を行っていく。本校・分校の連携も進めていく。                      ② 本校、事業所ともにお互いの様子を知るよい機会となった。懇談会は全体研修としたので、教員の認識に差があり、全体として深まるには至らなかった。次年度も全体研修とするが、実施方法等を検討。                      ③ 書式が整ったことで、保護者との話し合いがより具体化でき、実践に生かした。放課後等デイサービスを始め、その他の福祉機関、医療機関等との連携に半数以上（延べ人数）の児童生徒が利用。パーソナルカルテでの活用を考え、使いやすいように検討していく。</p>
<p>上 教職員の資質・組織力の向</p>	<p><b>中長期重点目標取組の2</b>  <b>【主な行動計画の目標①】</b>                      児童・生徒の緊急時の対応について、情報共有と再発防止を図る。  <b>【主な行動計画の目標②】</b>                      人権教育推進計画の整備を行う。</p>	<p>① 年度当初に各情報を提供。吐物等処理マニュアルを見直し、各トイレに吐物処理グッズとともに設置。保健衛生関係物品の保管管理一覧を提供。                      ② 人権教育推進計画を年度初めに全職員に配布した。それだけでは浸透しにくく、日ごろの取り組みに生かせなかった。推進計画の活用状況は検証できなかった。</p>	<p>① 保管管理一覧を作成することで、物品の補充がスムーズに行えた。吐物等処理マニュアルをトイレに加えて各教室にも配布したことで、各教室ですぐ確認できるようになった。                      ② 整備を行ったことで理解しやすくなった。次年度は人権教育とキャリア教育の関連を考え、指導の視点を整理して取り組みに生かし、推進計画の見直しを行う必要がある。</p>
<p>教員の専門性の向上 センター的機能の充実・</p>	<p><b>中長期重点目標取組の3</b>  <b>【主な行動計画の目標①】</b>                      国立特別支援教育総合研究所の講義配信システム活用による専門性の向上。  <b>【主な行動計画の目標②】</b>                      教職員の研修ニーズを把握し、研修会を開催する。</p>	<p>① デスクネットで全教職員に視聴方法を周知。5月から視聴可能、11月に視聴方法を再配信。基礎編45本、専門編60本が視聴可能。                      ② 知的障がい・肢体不自由の専門性向上のためそれぞれの研修会を8月に実施。事後アンケートでは満足度が、両方共に100%であった。</p>	<p>① 各教職員のニーズに合わせ、研修できるようになった。視聴について、今後も推奨していく。                      ② 教職員の研修ニーズに沿った研修内容であった。研修会場の設備面等を考慮し、分校の施設で行った。今後も分校の施設を借用したい。</p>

防災教育 防災対策	<b>中長期重点目標取組の4</b> <b>【主な行動計画の目標①】</b> 保護者の協力を得て学校での引き渡し訓練、スクールバス緊急停車時の引き渡し訓練を実施し非常時に備える。	① 1学期に学校での引き渡し訓練を実施：児童生徒の85%が参加。2学期にスクールバスからの引き渡し訓練を実施：該当児童生徒の85%が訓練に参加。	① 1学期の訓練は昨年度の参加率より20%下がったが、過半数の参加があった。2学期の訓練は昨年度の参加率より5%上がり、多くの保護者の理解があった。参加率が下がった要因は、放課後デイサービスの利用増加、保護者の意識や状況に変化があったためだと考えられる。今後も災害時に対する意識の向上のために防災についての啓発の機会を増やすことが必要。
学校運営の効率化	<b>中長期重点目標取組の5</b> <b>【主な行動計画の目標①】</b> 定時退校日への取り組み。 <b>【主な行動計画の目標②】</b> 行事の見直しを行う。	① 定時退校日は毎月設定。会議終了時間を意識し、延長した時は理由と改善点を明らかにする。主な会議について、ほぼ定時に終了。業務が多岐に及ぶ分掌では所要時間が長い。検討・協議が必要な時には、十分時間を取る。 ② 各分掌・学部で取り組む行事についてアンケートをとり、次年度に向け検討。全体に関わる行事は、毎月検討を行った。今年度14件以上を見直し、改善に向け検討した。	① 定時退校日、会議終了目標午後5時で、学校運営の効率化の意識が持てた。定時退校日であっても各自の仕事により徹底は難しい。会議への提案内容は係で検討を十分行っておくことが大切。 ② 毎月見直しの機会を持つことで、行事の課題が出やすく解決へ向けて話し合えた。年度途中でも改善へ向けて会議の調整を行った。次年度は変更した点について、それらが適当だったか見直していく。

## (2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通信の種類や発行回数、ホームページ更新の回数が多いことで学校からの情報発信が進み、学校への理解が進んできた。</li> <li>・ 知的障がい、肢体不自由のそれぞれの専門性を持った教職員がおり、専門性を生かした教育に取り組むことができる。</li> <li>・ 日々の仕事にやりがいを感じている職員が多く、同僚や管理職と相談しながら仕事を進めていける体制がある。</li> <li>・ 地域の特別支援学校として、地域の保幼小中への講師派遣や教育相談など、センター的機能が充実している。</li> </ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒数が増え、さらに教室不足となり、調理実習や作業学習、美術活動等行う場所に大きな制約がある。</li> <li>・ 校内に体を動かす広い場所がないため、中学部の生徒等で十分な運動ができず、保護者アンケートでも不満が多い。</li> <li>・ 4つの教育課程があることや、通学生・病棟生で食事の時間等が異なることで、活動や情報共有で工夫が必要となる。</li> </ul>

## (3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	3回

内 容 実 施	第1回（ 6月19日）：学校経営の改革方針についての説明
	第2回（10月30日）：学校見学（本校文化祭での学習発表）を学校経営の改善方針中間まとめについて
	第3回（ 2月15日）：学校評価報告書について

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関 係 者 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者差別解消法が施行になるので、これを機会に生徒にとって卒業後の選択肢が増えるとよい。</li> <li>・ 本校から分校への進学等に不安を感じる保護者がいる。連携・情報共有が進むとよい。</li> <li>・ 日々の業務が多忙だと思いが、人権推進計画の見直しは、ぜひとも推進していく必要がある。</li> <li>・ 引き渡し訓練等への参加が低いので、もっと保護者の協力が求められるようにPRして、訓練への参加率を引き上げる必要がある。</li> <li>・ センター的な機能の充実で、地域の学校で全職員対象の研修会等を開催してほしい。</li> </ul>

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次 年 度 に 向 け た 取 組
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育の推進を全体研修として取り組む。外部講師を招聘した研修会を開催し、各学部の授業実践に取り入れていく。キャリア教育プログラムの見直しと改善を行う。</li> <li>・ 各学部間及び本校分校間の連携を進めるための取組について検討し、一貫性のある教育の構築を目指す。</li> <li>・ 地域の特別支援教育のセンター校として、更なる支援の充実と、関係機関との連携を図る。</li> <li>・ 防災教育については、保護者、地域との連携を大切に、本校分校が協力して取り組みを継続していく。</li> </ul>